

二月十四日

二〇時ようやくぐぐに追われまくっていた原稿何本かに目途をつけた。書くのは描くのより数層倍困難だ。困難な事は面白い。設計より面白いのだろうか書くことは。解らんなコレワ。それに書くのはたった一人でやらなければならぬのが良いのだな。能力の表現が裸形なところが、赤裸々なのがいい。設計は他力に過ぎるところがある。次は長いのとりにかからねばならない。建築いくら作つたつて一つの論に負けるかも知れない本当に。

今日は昼大学でM0つまり今春より院生になる学生に課題を出した。世田谷は何とかスレスレに廻り始めたが、大学の研究室が停滞してしまったのを少し立て直さなければならぬ。週に一度はスタジオを見るようにしたいが、できるかな。星の子愛児園の現場が佳境に入つて明日は現場見学会。明日は設計に身を入れられそう。夜、続々とゲラが送られてくる。i sの山内さんもチヨツとは喜んでいただけたよう。ホツとした。夜半少しばかり敦煌の勉強。今日は午後児童公園の写真をダメライカで撮つてみて、すぐに現像したら、何となく撮れているではないか。初めての事だ。絞りの感じが少しはつかめた様な気がする。何と手間のかかるカメラだ。しかしこのライカは古いだけあって電池もいらぬ。何処にも電子部品が組み込まれていないだけあって故障だけは無さそう。コンタックスはもうコワれてしまった。修理に時間と金がかかりそう。新品買い直した方が早そう。な気もする。

モノの進歩というのはアテにならないところが多過ぎる。ダメライカ的生き方つてのもまっとうできれば面白いかも知れぬ。ハイテクカメラは壊れやすく、修理しにくいという事になると建築に於けるハイテクというのも考え直すべきかも知れないなコレワ。うまい水が飲みたい。しかし、そんな考えを押し進めてみるならばどんなカメラよりもスケッチという事になるのだが……。

二月十五日

朝、星の子愛児園現場見学会。G A杉田君、二川由夫と久し振りに会う。彼等のカメラはみんなデジタルカメラ。3Fの鉄板のチューブが程々に出来ていて今のところ失点は少ない。小さな建築に全精力を費やしている現実を良しとしよう。しかし、小さな単位が群体になっているような、そんな大群体を手掛けてみたい。今なら出来るのになあ、と思う事しきりである。午後地下で打ち合わせしていたら李祖原よりTEL入り、今ヒルトンHOTELだと言う。夕方会う約束を早めて3時過ヒルトンへ。李祖原と久し振りに再会。夕方7時迄話し込む。台湾のリーディングアーキテクトのみならず中国社会を代表する建築家になっているC・Y・LEEなんだが、彼も周囲から孤立し過ぎていて、どこかある。東洋の、アジアの建築家の悲哀を一身に背負っているのだ。ヨーロッパにきちんと顔を向け、ヨーロッパに帰順しながら、なおかつ独立しようとしている大建築家に磯崎新がいるのだが、磯崎は李ほどに民族文化にこだわらぬ自由、もしくは根無し草を演技しなくてはならない地政学を自覚している。

李祖原論を書くようにシンガポールの出版社から依頼されているのだが、これは書かねばならぬだろう。「義」という漢字が本質的に何を意味するのか知らぬ。ただその字体がかもし出す雰囲気

気は解るような気がする。マア色んなコトを背負い込み過ぎて
いる自分が、誠にサンチョ・パンサもないドン・キホーテに見え
なくも無いが、「義」なんて漢字に心が傾いてしまう自分の古き、
弱さは半分否定しながら、どうしても否定し切れぬところもある
んだなあ。気取るわけじゃないけれど、そんな事気取ったって間
抜けだけなのも知っているしね。

夜十一時磯崎さんとようやく電話がつながって明日夕方、李祖
原との会談をスケジュールに入れていただく。明朝、鈴木博之先
生にも連絡して時間を取っていただけるとどうか尋ねてみよう。
中国現代建築論なんてのは本当は鈴木博之が書くべきなのだ。

二月十六日

朝八時半富士山聖徳寺へ。杭位置確認及び富士ヶ嶺造園オヤジ
と土地造成の打合わせ。現場は雪が積もっていて杭を探すのに苦
労したが、南北アルプスを一望にして壮快な眺望であった。三月
中旬より造園工事にかかる。三時西調布で墓の特許申請に関して
国際特許事務所の方と打ち合わせ。特許は必要無いと思うのだが
依頼主がどうしても言うのだから仕方ないだろう。五時ヒルト
ンホテルで李祖原をピックアップ磯崎事務所へ。鈴木博之先生、
二川由夫合流。磯崎さんの中国での新作、カタルの仕事を見せ
てもらおう。アラベスク装飾の原理的探求が磯崎さんらしくて面白
かった。昔三浦梅園今イスラムって感じかな。広尾へ。李祖原が
完全なベジタリアンなのだがそれには構はずイタ飯を喰って赤ワ
インを飲む。批評と理論連続シンポジウムをどうやってまとめ、
どうやって発展させるか相談。会談の目的は磯崎さんにまだまだ
続けますよの確認であった。一年半後に全国規模の、独自の歴
史意匠部会を考えているのだが。もう少しアイデアをつめてから

相談だ。磯崎さんがポロリと。プリンストンからディーンの話し
が来てるんだがの話しが出て、もっぱら話題はそちらへ行ってし
まった。たまたま二川由夫、李祖原はプリンストン出身だ。引受
けたら面白いのに。磯崎さんのアメリカ亡命ってのは面白いよ。

鈴木さんも言っていたがグロピウス、ミース、磯崎という意外な歴
史的亡命ラインが生じるからね。人生何が起きるか解らぬものだ
な。李祖原が六月に鈴木博之を台湾に招待して、レクチャーが持
たれることになった。台北台中高雄の三都市で。上海に足をのば
せないかと思うがどうか。真夜中世田谷に戻る。地下に二名仕事
で残っていた。

二月十七日

朝気がつけば又々だ。昨夜つくづく感じたのだが磯崎鈴木が話
し出すと仲々話題についてゆけぬ事態が発生している。知識量の
桁がちがうぜ。マ、ジタバタしても仕方がないが、チョツとはジタ
バタしてみよう。下手すると彼等とは日常会話しか交わせぬとい
う悲喜劇が出現してしまうな、六〇代に。ボケ老人にならない為
にも何とかしなくちゃ、漢字の表記音訓読みの話しなんか全くつ
いていけなかった。何処で勉強してんだアイツ等は。磯崎さんは
書を始めるそうで、何となく予想通りという感じだなあ。上海で
師を探すというところが磯崎的である。十四時大学入試空間表現
採点。十九時世田谷村地下、宮本邸の模型、星の子愛児園打ち合
わせ。安藤平山と軽く食事。うまくこいつ等が育ってくれば良
いのだが。単純ではあるが実感として日曜日に仕事してる奴等は
イイヨ。宗柳で彼等と食事、そして少し飲む。どうでもイイけど
育って欲しい。建築を作ることと人間を作るコトとどちらが大変
かと問えば、勿論人間ではあるが、人間は形になりにくく、建築

は形になりやすい。

明朝ははやい。早く休まねばならぬが、それが出来るか怪しい。二十二時家内と食事。他に誰もいない。デッカイ家に二人はチョットシンシンとするな。もう少し小さく作っておくべきだったかな。

二月十八日

朝五時起床。眠いのになマツタク嫌な商売だ。土地を見に行ったり、依頼主に会ったり皆こちらから動かなくちゃならない。八時半羽田より福岡へ。今、空に浮いている。福岡便は黒背広の男達で満席である。満員のこの人達が謂はゆるマジヨリテイなんだろうが、どうひいき目に見ても未来への可能性なんて感じられないよ。

ブッシュ大統領が来日している。日本に経済以上の何も求めていないのは明白なのを誰もが知っている。これも巨大な悲哀だよ。ブッシュは親子二代がかりでイラクを、サダムフセインを攻撃するのだろう。機内TVでニュースを見ているとアフガン、ネパールで騒乱が起きている。カトマンズ空港を武装集団が襲撃百名以上の死者がでている。これじゃキルティプールは行けない。

十時半福岡空港着。十一時カシイ石山棟宮本さん宅。住宅の打ち合わせ。御主人の言う事は理解できるのだが、奥さんは仲々むずかしい。しかし少しは理解できるような気もしてきた。何とかしよう。住宅設計を再開すると覚悟したんだから、これぐらいのことでも文句を言ったらいけないのだ。いい家を作ってあげたい気持ちに変わりはないのだが、それに要する労力が依頼主の想像の域を超えているのだ、確実に。宮本さん奥さんの手作り中華風家庭料理をいただいた、コレはおいしかった。十五時頃北九州研究所の

高木君がカシイまで来てくれて、私をピックアップ佐賀へ。北九州の集合住宅はまだ土地が決まっていけないそうだ。来年まわしだな。佐賀早稲田バウハウス旧校舎でワークシヨップOBが待っていて、佐賀市内唐人町へ。幾つもある唐人町の空部屋を視る。その空きビル空部屋の使い方を討議する。後、駅前の飯屋で会食。ワークシヨップOBが次々に集まった。二十一時ホテルニューオータニに帰る。流石にこれ以上は附合えない。日経新聞ガラチエック。佐賀、椎藤の使い径を真剣に考えてみよう。私の仕事の何がしかに組み込むのが一番なんだろうが、彼にそうする決断を求めるのは無理だ。しかし椎藤を佐賀に眠らせておくのは勿体ないんだよな。四〇過ぎの家庭もある大人の人生を変えるのは難しいが、本当は実に簡単でもあるのも知っている。二十二時寝てしまふ。眠さを押さえ切れぬ一日であった。

二月十九日

朝七時過まで眠った。今日はここを十時過に出れば良いか。椎藤氏に電話して朝方会おう。「現代とは何か」書く。ニューオータニで椎藤と朝食。色々と話す。昨夜は朝の三時までOB達と飲んだそうだ。早目に抜けて良かった。

ホテルから佐賀駅バスセンターまで歩く。少し汗ばむ位の良い散歩になった。JR高架下のバスセンターはうら寒く暗い。地方都市の困難さを象徴している。十時半の西鉄高速バスで福岡空港へ。十二時二〇分の便で東京へ。今日は夕方日建設計橋本常務と会食の予定が入っている。飛行機でせいぜい休んでおこう。